# 基礎看護学分野における書籍に記述された心理社会的側面のヘルスアセスメント内容に関する分析

佐藤幸子・遠藤恵子・三上れつ*

# Book analysis study for contents about psycho-sociological health-assessment of fundamentals of nursing.

Yukiko SATO, Keiko ENDO, Retsu MIKAMI*

Abstract:

Purpose: The purpose of this study is to classify the described contents about psycho-sociological health-assessment in the nursing textbooks. We tried this study as a first step to examine educational contents about psycho-sociological health-assessment.

Method: The subjects of this study were 126 nursing books which were searched by using these key words : health assessment, physical assessment, nursing assessment, nursing process, nursing diagnosis and fundarmentals of nursing. Data analysis were performed using CONTENT ANALYSIS.

Results: There were fifty eight books in which descriptions about psycho-sociological health-assessment were recognized. In 34 books, descriptions are only the lists of some assessment categories or assessment data bases. 5 books are manuals of nursing diagnosis. The other books, 19 books, are various. Contents of these books were classified 3 categories : a viewpoint, problem, theory.

Discussion: These results suggest that it is not enough the theoretical description which contribute to promote student's ability about psycho-sociological health-assessment.

Key words: psycho-sociological health-assessment, fundarmentals of nursing, book

## はじめに

医療の高度化や在宅ケアの推進により，患者の健康状態のアセスメントに対する更なる責任が看護に生じてきている[1]。人々のニードに応じた看護を提供するためには，人間をより全体的な視点でアセスメントする必要性が求められており，アセスメント能力の育成が重要視され，看護基礎教育においても，それらを教育する科目として，看護診断論，ヘルスアセスメント論，クリティカルシンキングなどがカリキュラムに採り入れられてきている。

患者の健康状態のアセスメントには身体的側面だけでなく心理社会的側面も含まれるが，学生に提示する参考図書の多くは，内容的に医学に基づいたフィジカルアセスメントになっているものが多く[2)~3)]，心理社会的側面はほとんど取り扱われてはいない。また，身体的側面についても医学的枠組みで教授されており看護学の枠組みからは必要

山形県立保健医療大学看護学科
〒990-2212 山形市上柳 260 番地
Yamagata Prefectural University of Health Science
Department of Nurse Science
260 Kamiyanagi Yamagata City 990-2212 Japan
* 慶應義塾大学看護医療学部
〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤 4411
Faculty of Nursing and Medical Care, Keio University
4411 Endou, Fujisawa City, Kanagawa 252-0816 Japan

性の問われるものもある。また，生理的側面は内容を精選すれば従来の医学的枠組でも対応可能であるが，心理社会的側面は医学的枠組で対応することは限界があると思われる。看護診断分類や看護介入分類，看護成果分類が開発され[4)~6)]，実践に活用されてきているが，それにあわせた教育内容の組み替えは進んでいない。看護診断のためのアセスメント項目の精選が必要であると考える。

さらに看護診断で取り扱う心理社会的側面のヘルスアセスメントについての内容の言及は少なく，その選択は個々の学校や教員の裁量にまかせられている。したがって看護のための心理社会的側面のヘルスアセスメントに必要な教育内容を検討することが急務となっている。

以上のことから，基礎看護教育に求められる心理社会的側面のヘルスアセスメント項目を検討する基礎的研究として，心理社会的側面のヘルスアセスメント内容が看護の書籍で，どのように取り上げられているかを明らかにし，今後の方向性や検討課題を考察することを目的として研究を行った。

## 対象及び方法

対象は過去10年間（1990年～1999年まで）にわが国で発刊されたヘルスアセスメントに関する項目が取り扱われている看護の書籍とした。

過去10年間と限定した理由は，保健婦助産婦看護婦法指定規則の教育課程の改正，第1回日本看護診断研究会の発足，一県一看護大学設置の具現化，医学中央雑誌でヘルスアセスメントやフィジカルアセスメントというキーワードが検索可能になった時期に相応し，看護教育内容が変化してきたためである。

書籍の検索は紀伊国屋のBook Webを使用し，キーワードは「ヘルスアセスメント」，「フィジカルアセスメント」，「看護アセスメント」，「看護過程」，「看護診断」，「基礎看護」で検索した。これらのキーワードを選択した理由は，①ヘルスアセスメントと題した書籍以外にも心理社会的側面のヘルスアセスメントを扱ったものがあるのではないかと考えられたこと，②本研究の目的が基礎看護学の教育内容を検討するものであること，③看護診断との関連で取り扱われている可能性があることの3点である。また，紀伊国屋のBook Webを使用した理由としては，国内の代表的な4種類の書籍検索システムを使用し，同一キーワードによる検索結果を比較し，Book Webが当該テーマの検索において最も適していると思われたからである。

検索された書籍198冊のうち，国家試験問題集，事例集は心理社会的側面の内容を取り上げることが困難なため除外した。また，今回は基礎看護学の内容を検討するため，成人看護学などの専門領域の書籍も除外した。改訂版がある場合は最新版を採用した。

分析は，1）書籍目次からアセスメントに関連する項目があるものを選択した。作業は2人の研究者によって行い，選択の不一致については話合いで採否を決定した。次に書籍のアセスメント項目の内容から心理社会的ヘルスアセスメントに関連する記載のあるものを選択した。2）心理社会的アセスメントに関する記載のある書籍の該当部分について内容分析をおこなった。3）分析作業は複数の研究者で行い一致率を算出しデータおよび分析の信頼性，妥当性の確保に努めた。

本研究における用語の操作的定義は以下のとおりである。

心理社会的：身体生理的なもの以外

アセスメント：患者のデータを系統的・継続的に収集して分析し，妥当化すること[7)]

ヘルスアセスメント：看護学の概念枠組みで人間の身体的・心理社会的側面のデータを収集し分析すること[8)]

データベース：看護学の視点で構成された患者の健康状態の基礎データ[9)]

カテゴリー：看護学の視点で構成された患者の健康状態の基礎データの分類

## 結　　果

### 1．キーワード検索

キーワード検索によって得られた書籍は198冊であり，キーワード毎の検索数は「ヘルスアセスメント」3冊，「フィジカルアセスメント」9冊，「看護アセスメント」13冊，「看護過程」61冊，「看護診断」143冊，「基礎看護」90冊で，同一の書籍が重複していた。国家試験問題集，事例集，成人看護学などの専門領域の書籍を除く最新版は126冊であった。

### 2．アセスメントに関する記載

126冊中アセスメントに関する記載があった書

籍は98冊で抽出一致率は77.2%であった。その中で心理社会的ヘルスアセスメントに関連する記載のあるものは59冊で抽出一致率は67.9%であった。

### 3．心理社会的ヘルスアセスメントに関する記載内容の分析

心理社会的側面のヘルスアセスメントに関連する記載がある書籍のうち，34冊は看護過程のアセスメントのためのカテゴリーやデータベースが列挙してあるがアセスメントの具体的方法や理論的根拠の記載がないものであった。カテゴリーやデータベースの枠組みとしてはNANDA，ゴードン，ヘンダーソン，ロイ，オレム，黒田，松木，マズロー，アブデラ，ペプローであった。年代別には1992年にNANDAの枠組みに基づくデータベースが訳本で出版され，1994年頃からこれらのカテゴリーやデータベースに関する記載が増加していた（Table1）。

心理社会的側面のヘルスアセスメントに関連する記載がある書籍のうち，5冊は看護診断マニュアル，ハンドブック等の看護診断分類，診断指標と関連因子が記述されているものであった。

心理社会的側面のヘルスアセスメントに関連する記載がある書籍のうち，19冊はそれぞれ，独自の項目を取り上げていた（Table2）。これらの項目は「心理社会的アセスメントの視点」，「心理社会的な看護問題（看護診断）」，「心理社会的アセスメントに関する理論背景」に分類された（Table3）。

以上から，全体的に見て1994年ころより心理社会的側面についてアセスメントとして取り上げられるようになってきていたが（Table4），ヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメントと題し

Table 1　アセスメントのデータベースおよびカテゴリーのみの記載のある書籍数

| 年 | データベース | 書籍数 | 和・訳 | カテゴリー | 書籍数 | 和・訳 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1990 | | 0 | | | 0 | |
| 1991 | | 0 | | | 0 | |
| 1992 | NANDA | 1 | 訳 | | 0 | |
| 1993 | | 0 | | | 0 | |
| 1994 | ゴードン | 2 | 和・訳 | ゴードン | 1 | 訳 |
| | 黒田 | 1 | 和 | ロイ | 1 | 和 |
| | | | | 松木 | 1 | 和 |
| 1995 | | 0 | | ゴードン | 1 | 訳 |
| | | | | 松木 | 1 | 和 |
| 1996 | ゴードン | 4 | 和1・訳3 | NANDA | 1 | 和 |
| | ヘンダーソン | 1 | 和 | ヘンダーソン | 2 | 和2 |
| | ロイ | 1 | 訳 | ロイ | 2 | 和・訳 |
| | オレム | 1 | 訳 | マズロー | 1 | 和 |
| 1997 | 黒田 | 1 | 和 | NANDA | 4 | 和3・訳1 |
| | ロイ | 1 | 和 | ゴードン | 3 | 和2・訳1 |
| | | | | ヘンダーソン | 1 | 和 |
| | | | | ロイ | 1 | 和 |
| | | | | マズロー | 2 | 和・訳 |
| | | | | オレム | 1 | 和 |
| | | | | アブデラ | 1 | 和 |
| 1998 | NANDA | 1 | 和 | NANDA | 1 | 和 |
| | ゴードン | 3 | 和2・訳1 | ゴードン | 1 | 和 |
| | ヘンダーソン | 2 | 和2 | ヘンダーソン | 1 | 和 |
| | | | | 黒田 | 1 | 和 |
| 1999 | NANDA | 1 | 和 | ロイ | 1 | 訳 |
| | ゴードン | 1 | 和 | ヘンダーソン | 1 | 訳 |
| | ヘンダーソン | 2 | 和 | オレム | 1 | 訳 |
| | ロイ | 2 | 和 | ペプロー | 1 | 訳 |

Table 2　心理社会的ヘルスアセスメントに関する項目

| 書籍 | 心理社会的ヘルスアセスメントに関する項目 | 理論的背景の記載 |
|---|---|---|
| A | 防衛機制，知覚，記憶と学習，思考と知能，感情，意識，性格，欲動・行動，人格の発達 | 有 |
| B | 認知・知覚，自己知覚 — 自己概念，役割 — 関係，コーピング・ストレス耐性，価値 — 信念 | 有 |
| C | 心理・感情（恐怖，不安・心配，ストレス，依存性と無力感，怒り，反抗），自己概念 | 無 |
| D | 発達課題，欲求，適応機制 | 無 |
| E | 自己概念，成長と発達，霊的宗教的信念，家族，悲嘆，喪失，死，薬物乱用，性，感覚 | 有 |
| F | ニーズ，発達，価値，コミュニケーション | 有 |
| G | 宗教，性格，趣味，発達，社会生活，自己管理能力 | 無 |
| H | 知的要素，社会経済，対処能力，健康に関する理解，質問様式 | 無 |
| I | ストレス管理，健康探究行動，成長・発達，役割，ソーシャルサポート，精神性，心理状態，病院等の環境への適合，コンプライアンス，コーピング，達成感 | 無 |
| J | 成長のアセスメント（発達段階，認識，心理社会的） | 有 |
| K | 性格，環境，適応，欲求，日常生活行動 | 無 |
| L | 成長・発達，性と行動，障害の受容，特性，欲求，心理（不安，自己中心，猜疑心，依存心，劣等感，攻撃性） | 無 |
| M | 家族のアセスメント，対処能力，発達課題，危機対処の経験，対応状況，適応状況 | 無 |
| N | ニード理論，成長・発達，ストレス・コーピング，精神力動理論，危機・対応理論，役割理論，セルフケア理論，家族看護学，行動科学 | 有 |
| O | ストレス，欲求，成長，性，家族 | 有 |
| P | 自己概念，自尊心，ボディイメージ，悲嘆過程，喪失，役割 | 有 |
| Q | 危機のアセスメント | 無 |
| R | 防衛機制，危機モデル，マズローの欲求段階，心理的発達，性の発達，家族 | 無 |
| S | 危機，コーピング，不安，抑うつ，怒り，自殺，悲嘆，多動・そう，錯乱，対人接触，コンプライアンス，依存的，アルコール依存，薬物乱用，性機能不全，痛み，栄養，家族の機能，家庭暴力，霊的苦悩 | 有 |

Table 3　心理社会的ヘルスアセスメントに関連する項目の分類

| アセスメントの視点をあらわす項目 | 心理社会的状態をあらわす項目 | アセスメントに関する理論をあらわす項目 |
|---|---|---|
| 知覚 | 危機 | 防衛機制・精神力動 |
| 記憶・学習 | 不安 | 危機モデル |
| 思考・知能（知的要素） | 怒り | ストレスコーピング |
| 感情 | 抑うつ | マズローの欲求段階 |
| 意識 | 悲嘆・喪失・死 | 心理的発達 |
| 対処能力 | 自殺 | 性の発達 |
| ストレス管理 | 多動・そう | 家族の機能 |
| 自己管理能力 | 錯乱 | 自己概念・価値 |
| 達成感 | 対人接触の障害 | コミュニケーション |
| 障害の受容 | コンプライアンス不足 | 役割 |
| 健康に関する理解 | 依存的 | セルフケア |
| ソーシャルサポート | アルコール依存 | 行動科学 |
| 環境への適合 | 薬物乱用 | |
| 性格 | 性機能不全 | |
| 趣味 | 摂食障害 | |
| 家庭 | 無力感・反抗 | |

Table 4　出版年別心理社会的ヘルスアセスメントの記載のある書籍数

| 年 | 書籍冊数 |
|---|---|
| 1990 | 1 |
| 1991 | 2 |
| 1992 | 1 |
| 1993 | 0 |
| 1994 | 5 |
| 1995 | 4 |
| 1996 | 11 |
| 1997 | 11 |
| 1998 | 9 |
| 1999 | 9 |
| 計 | 53 |

（看護診断マニュアルを除く）

た書籍は1995年以降に9冊出版されているのみで，アセスメントカテゴリーと連動して心理社会的なアセスメント項目を扱い，理論背景を明記して展開されている書籍は見当たらなかった。

## 考　察

心理社会的ヘルスアセスメントに関連する項目がある書籍のうち，57.6%はカテゴリーやデータベースのみが記載されているものであった。これらは基礎看護学の参考書として出版されているものが多く，1994年以降に急激に増加し，看護過程のアセスメントの指標として取り扱われていた。しかもこの時期はNANDAの看護診断やゴードンの機能的健康パターンが日本の看護実践の中で急速に導入された時期に相当する。看護診断の中に心理社会的側面の診断名が明確化されることにより，心理社会的アセスメントのカテゴリーも明確化され，NANDAの看護診断やゴードンの機能的健康パターンの導入と同時に，参考書にカテゴリーやデータベースとして紹介され始めたものと考えられる。また，アセスメントのための「データベース」という考え方が明確になってきたことから，NANDAの看護診断やゴードンの機能的健康パターン以外の理論に基づくデータベースの検討が引き続き書籍の中に見出されるようになってきたと考えられ，NANDAの看護診断やゴードンの機能的健康パターンの心理社会的ヘルスアセスメントに果たした役割は大きいものと思われる。しかし，理論的背景や詳細についての記述がなくカテゴリーやデータベースのみが紹介されているものが多いために，カテゴリー名は身近になってきたものの，実際のアセスメントに活用できるまでの理解のための内容には至っていないと思われる。

心理社会的ヘルスアセスメントに関連する記載がある書籍のうち，その約1割は看護診断マニュアルであった。看護診断マニュアルは看護診断名，定義，関連因子，達成基準，看護介入について記述されているものであるが，帰納的に作成されたものであり，そのアセスメントの理論背景については記述が少ないため，心理社会的側面をどのような理論を活用すればよいのかが理解しにくい。

心理社会的側面のヘルスアセスメントに関連する記載がある書籍のうち，32.2%はTable2のとおり独自の項目で心理社会的側面の内容を記述していた。その中で理論的背景まで記述のあるものは9冊であった。しかし，各書籍の中で取り上げている項目にはばらつきがあり，どのような観点から項目を取り上げているのか，項目間の位置づけが不明確と思われるものが多い。すなわち，アセスメントの視点をあらわすものと，心理社会的な看護問題をあらわすものとアセスメントの背景となる理論をあらわすものが並列的に混在していたり，概念レベルが不統一で理論的背景が不足しているものであった。これは心理社会的アセスメントがいかに多様な観点から行われるかを反映したものとも考えられるが，看護診断名に対応しうる中範囲理論の整理とその活用について検討していく必要があると思われる。黒田は[10]看護アセスメントの独自の16項目の枠組を示し，アセスメントの土台となる知識として，ニード理論，成長・発達理論，精神力動理論，自我心理学，ストレス・適応理論，役割理論，家族力動理論，行動理論，保健学的知識，コーピング理論，セルフケア理論，医学的知識，疫学的知識をあげている。また，現場では対象の医学的な情報以外の心理社会的な側面の情報のアセスメントをあまり深く行っていないことを指摘している。これは心理社会的側面の情報のアセスメントを理論を使用しながら行うという教育が不十分であったために生じていると思われる。今後事例検討などから心理社会的側面の情報のアセスメントにおいて必要な理論の検討を重ねることにより，基礎看護学教育の中で心理社会的側面の情報のアセスメントをどのように教育していくかを導き出していく必要がある。C. ロイは[11, 12] 500例の事例から4つの適応様式として生理的様式，自己概念，役割機能，相互依存を抽出している。生理的様式以外は心理社会的様式に含まれるが，そのひとつひとつについて理論背景を丹念に整理し記述しており，また，行動のアセスメントと刺激のアセスメントの方法も比較的詳細な記述があるため，心理社会的側面の情報のアセスメントにおいて非常に有用である。

ヘルスアセスメントおよびフィジカルアセスメントと題した書籍は9冊であったが，アセスメントカテゴリーと連動して心理社会的なアセスメント項目を扱い，理論背景も明記して展開されているものはなかった。内布は[13]看護のアセスメント

であるならば，当然心理社会的側面のアセスメント項目も整理する必要があるが，現段階では基礎的研究がそこまで至っていないと判断し，フィジカルアセスメントの中に心理社会的側面を盛り込んだとして書籍を編集している。

以上の結果より，心理社会的側面のヘルスアセスメントについて扱っている書籍は少なく，記述されている内容にもばらつきがあり，心理社会的側面のアセスメント能力を育成していくための理論的基盤の記述が不十分であることが考えられた。この理由としては，自然科学である医学の知識体系を基盤としたフィジカルアセスメントに比較して，心理社会的アセスメントをする際に活用する社会科学分野の知識体系の整備が進行中であること，開発されている中範囲理論との関連など，整理しにくいことが挙げられよう。

今回は成人・老人・母子・精神・地域看護学など看護専門領域の書籍を省き基礎看護学領域を中心に分析した。これは基礎看護学における教育内容を中心として分析したからであるが，今後は看護学の専門領域を含め，心理社会的アセスメントに不可欠な中範囲理論も考慮に入れて検索し，アセスメントカテゴリーをふまえながら心理社会的ヘルスアセスメント項目を整理し検討をすることの必要性が示唆された。

## おわりに

今回, 過去 10 年間の書籍における心理社会的側面のヘルスアセスメントの記載内容を分析し，アセスメントの方法や理論的根拠を整理して記載している書籍がほとんどないことが明らかとなった。これは心理社会的アセスメントの多面性・複雑性からくるものと考えられるが，精神的社会的な看護の重要性が叫ばれ，看護診断として心理社会的側面に関するものも多いことを考えると，今後教育内容の整理を早急に進めていくことが重要であると思われる。

## 分析した文献


1）井上幸子編：看護学体系第 5 巻看護と人間. 日本看護協会出版会，東京，1990.

2）石川稔生監訳：クリニカルナーシング看護診断，医学書院，東京，1991.

3）吉田時子監修：基礎看護学 1，金原出版，東京，1991.

4）中木高夫監訳：看護診断データベース，医学書院，東京，1992.

5）中木高夫監訳：看護過程と看護診断，小学館，東京，1994.

6）黒田裕子：わかりやすい看護過程，小学館，東京，1994.

7）渡辺トシ子：改訂 PO 的思考による看護過程の展開，中央法規出版，東京，1994.

8）森山美知子訳：看護診断のための看護アセスメント．医学書院，東京，1994.

9）松木光子編：看護診断の実際 ― 考え方とケーススタディ，南江堂，東京，1994.

10）松木光子，中木高夫編：看護診断入門．医学書院，東京，1995.

11）清川美和，河地加津枝：基礎看護．医学芸術社，東京，1995.

12）種池礼子監修：基礎看護学．HBJ 出版, 東京，1995.

13）輪湖史子監訳：ゴードン博士の看護診断，照林社，東京，1995.

14）江川隆子：事例で学ぶ看護過程．照林社，東京，1996.

15）江本愛子監訳：基本から学ぶ看護過程と看護診断．医学書院，東京，1992.

16）三上れつ：実践に役立つ看護過程と看護診断. 廣川書店，東京，1996.

17）江川隆子他監訳：看護診断入門ナーシングプロセス 1．廣川書店，東京，1996.

18）江川隆子他監訳：看護診断入門ナーシングプロセス 2．廣川書店，東京，1996.

19）藤村龍子，中木高夫監訳：基礎看護科学．医学書院，東京，1996.

20）井上幸子編：看護学体系 6 巻看護の方法．日本看護協会出版会，東京，1996.

21）山崎美恵子：基礎看護学 2．金芳堂，東京，1996.

22）小笠原知枝，松木光子監訳：ベタードキュメンテーション ― 看護過程にそった看護記録. 南江堂，東京，1997.

23）黒田裕子：看護診断を実践に活かす．看護の科学者，東京，1997.

24）古橋洋子：エクササイズ PONR・看護診断，日総研出版，名古屋，1997.

25）藤村龍子監訳：クリティカル・シンキングを基本にした看護診断プロセス．医学書院，東京，1997.
26）江川隆子他監訳：クリティカル・シンキング・アプローチ看護過程と看護診断．廣川書店，東京，1997.
27）小西恵美子，太田勝正訳：健康増進のためのウェルネス看護診断．南江堂，東京，1997.
28）波多野梗子：基礎看護学 1．医学書院，東京，1993.
29）内藤寿喜子，江本愛子：基礎看護学 2．メヂカルフレンド社，東京，1992.
30）江本愛子：基礎看護学 3．メヂカルフレンド社，東京，1992.
31）藤村龍子：患者アセスメントマニュアル．小学館，東京，1997.
32）焼山和憲：ヘンダーソンの看護観に基づく看護過程．日総研出版，名古屋，1998.
33）黒田裕子：事例で学ぶ看護過程実践マスター．日総研出版，名古屋，1998.
34）日総研グループ：看護診断実践事例集臨床活用の工夫と定着のコツ．日総研出版，名古屋，1998.
35）野島良子訳：看護診断 — その過程と実践への応用 —．医歯薬出版，東京，1998.
36）金子道子，石井八重子監修：看護学臨地実習ガイダンス 1．医学芸術社，東京，1998.
37）石渕夏子，松永保子：基礎看護学 2．医学芸術社，東京，1998.
38）藤田春枝，縣世津子，久保成子：基礎看護，医学書院，東京，1998.
39）渡辺トシ子編：ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント．廣川書店，東京，1998.
40）マージョリー・ゴードン，佐藤重美：ゴードン博士のよく分かる機能的健康パターン．照林社，東京，1998.
41）秋葉公子他：看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践．廣川書店，東京，1995.
42）小田正枝編：ロイ適応モデル看護過程と記録の実際．廣川書店，東京，1999.
43）鈴木和子，渡辺裕子：事例に学ぶ家族看護学．廣川書店，東京，1999.
44）金子道子編：ヘンダーソン，ロイ，オレム，ペプロウの看護論と看護過程の展開．照林社，東京，1999.
45）斎藤悦子監修：看護過程学習ガイド．学習研究者，東京，1999.
46）江川隆子：江川隆子のかみくだき看護診断．日総研出版，名古屋，1999.
47）池田明子監訳：心理社会的援助の看護マニュアル．医学書院，東京，1999.
48）佐藤重美監訳：臨床に活かす看護診断．小学館，東京，1996.
49）松木光子：看護診断の現在．医学書院，東京，1997.
50）花田妙子，山内豊明，中木高夫監訳：ヘルス・フィジカルアセスメント下巻．日総研出版，名古屋，1998.
51）種池礼子編：コンパクトでわかりやすい基礎看護学．へるす出版，東京，1999.
52）井手信監修：ケーススタディ看護診断ガイド．廣川書店，東京，1994.
53）パトリシア・A. ポッター，大石実：看護診断に必要なヘルスアセスメント．医学書院，東京，1999.
54）日本看護診断学会：NANDA 看護診断定義と分類 1999-2000．医学書院，東京，1999.
55）竹花富子監訳：看護診断ハンドブック（第 3 版）．医学書院，東京，1997.
56）野島良子監訳：看護診断マニュアル 1997-1998．へるす出版，東京，1998.
57）新道幸恵監訳：カルペニート看護診断マニュアル．医学書院，東京，1995.
58）草刈淳子他訳：「改訂」看護診断マニュアル．ヘルス出版，東京，1993.

## 引用文献

1）Janet W. Jane K. : Health Assessment in Nursing. Lippincott, New York, 9 , 1998.
2）川原礼子：実践に役立つフィジカルアセスメント．廣川出版，東京，1998.
3）福井次矢監訳：写真で見るフィジカル・アセスメント．医学書院，東京，1997.
4）日本看護診断学会監訳：NANDA 看護診断定義と分類 2001-2002．医学書院，東京，2001.
5）中木高夫，黒田裕子監訳：看護介入分類 (NIC) 原著第 2 版，南江堂，東京，2001.

6）藤村龍子，江本愛子監訳：看護成果分類(NOC) 医学書院，東京，1999.
7）三上れつ：実践に役立つ看護過程と看護診断．廣川書店，東京，13，2001.
8）中西睦子監修：実践基礎看護学．建帛社，東京，1999.
9）7）前掲書，97，2001.
10）黒田裕子編著：事例で学ぶ看護過程実践マスター，日総研．名古屋，8-11，1998.
11）C. Roy : Adaptation : A Basis for Nursing Practice. Nursing Outlook, 19(4), 254-257, 1971.
12）松木光子監訳：ロイ適応看護モデル序説原著第2版，へるす出版，東京，1995.
13）中西睦子監修：実践基礎看護学．建帛社，東京，1999.

— 2001. 10. 31. 受稿，2002. 1. 17. 受理 —

## 要　約

**目的：**看護学生の心理社会的側面のヘルスアセスメント能力を育成するための教育内容を検討するにあたり，第1段階として心理社会的アセスメントに関係する内容が基礎看護学に関する書籍でどのように取り上げられているかを明らかにする。
**方法：**対象は，過去10年間にわが国で発刊された書籍のうち，ヘルス・フィジカルアセスメント・看護アセスメント・看護過程・看護診断・基礎看護のキーワードで検索した126冊である。分析は内容分析的手法を用いた。
**結果：**126冊中，心理社会的アセスメントに関する記載のあった書籍は58冊であった。そのうち，34冊は「カテゴリーやデータベース」のみの列挙，5冊は「看護診断指標と関連因子」が記述されており，残りの19冊の内容は，「心理社会的アセスメントの視点」，「看護問題（看護診断）」，「理論背景」のカテゴリーに分類された。
**考察：**心理社会的側面のヘルスアセスメント能力を育成していくための理論的基盤の記述が不十分であることが示唆された。
**キーワード：**心理社会的ヘルスアセスメント，基礎看護学，書籍